

第6号議案

社会資本整備総合交付金事業(道路改築)

国道122号 わたらせかんせんどうろ しおぼら 渡良瀬幹線道路(塩原工区) おおままらよう みどり市大間々町

着手年度

平成28年度

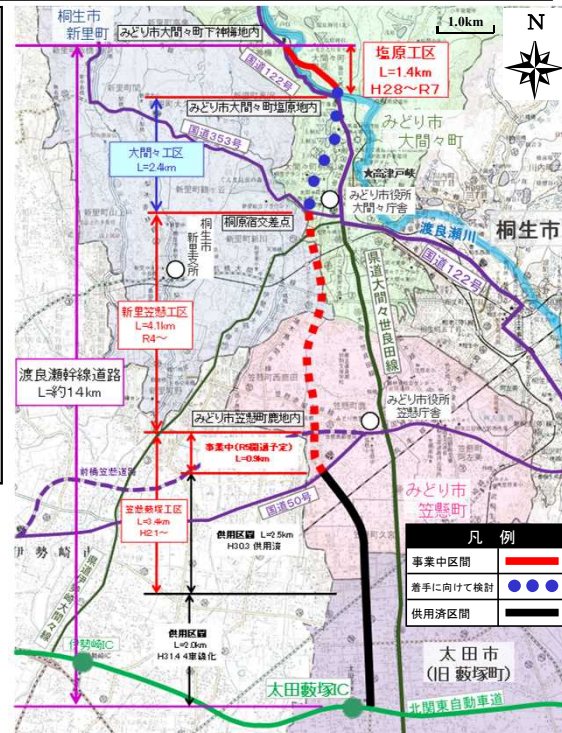
評価理由

事業費の増額

1. 事業の概要

県土整備プランの位置づけ 政策1:災害レジリエンスNo. 1の実現  
 施策3:防災インフラの整備(中長期レジリエンス戦略)

- 渡良瀬幹線道路は、太田市の北関東自動車道太田藪塚インターチェンジから桐生市を經由し、みどり市大間々町下神梅の国道122号に至る延長約14kmの主要幹線道路である。そのうち本工区は、みどり市大間々町下神梅～みどり市大間々町塩原に至る延長約1.4kmのバイパスである。
- 現道の国道122号は第一次緊急輸送道路及び重要物流道路の代替・補完路であるが、斜面崩壊による通行止めが複数回発生しており、大雨の際には通行の危険性が高まることから雨量規制の区間にもなっている。また、線形不良箇所が多く、交通事故発生のおそれがある。
- 本事業により、国道122号の危険箇所と線形不良箇所を回避することで、災害時にも機能する強靱な道路ネットワークが確保されるとともに、安全で円滑な通行が可能となる。



国道122号 斜面崩壊による通行規制(H23)



国道122号 線形不良箇所



事業場所	みどり市大間々町下神梅～みどり市大間々町塩原	
区分	事業採択時(H28)	今回
全体事業費	1,800百万円	3,250百万円
全体事業費増減の理由	—	資材費・人件費の増額 橋梁工事用道路の増額等
事業期間	H28～R7	H28～R11
事業内容	道路延長 1,560m 道路幅員 10.5m	道路延長 1,440m 道路幅員 10.5m

2. 進捗状況

事業経緯

年度	主な経緯
H28	測量設計着手
H29、H30	地域へのアンケート調査等を実施(道路線形決定)
R2	用地買収工事着手

進捗状況

	全体計画	前年度までの進捗状況(進捗率)
事業費	3,250百万円	1,000百万円(30.8%)
用地買収	13,700m <sup>2</sup>	7,730m <sup>2</sup> (56.4%)
計画延長	1,440m	0m(0.0%)

## 2. 進捗状況(図面・写真等)

### 全体平面図



### 横断面図



### 工事着手区間



## 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- 近年、気候変動の影響等により気象災害が頻発化・激甚化しており、塩原工区の並行現道である国道122号では、落石や斜面崩落の発生や大雨等による通行規制が度々発生している。
- 「ぐんま・県土整備プラン2020」において、塩原工区を含む渡良瀬幹線道路を防災・拠点集積エリア内(桐生・みどり地域)の主要拠点間を結ぶ「災害時にも機能する強靱な道路ネットワーク」に位置づけている。
- 本事業区間の現道区間は急峻な斜面が道路脇に連続し、斜面崩落等の危険箇所が存在しており、現在もその状況は改善されていないことから、事業の目的・必要性に変化はない。

### ■ 国道122号の通行止め・規制発生回数(H23～R4)

種別	通行止め・規制発生回数
雨量規制	2回
落石	1回(通行止め)
斜面崩壊	1回(通行止め)

### ■ 渡良瀬幹線道路の整備による強靱な道路ネットワークの形成



### ■ 雨量規制区間



### 落石による全面通行止め(H28)



雨量規制区間 L=1.5km (規制雨量 150mm)

## 4. どのような事業効果が見込めるか？

### 【渡良瀬幹線道路全体の効果】

- ・ 渡良瀬幹線道路は災害時にも機能する強靱な道路ネットワークに位置付けられており、整備されることで桐生・みどり市における防災・物流拠点集積エリア内の早期の救命救助や被災地への支援物資輸送を可能にするとともに企業の経済活動の継続性が確保される。
- ・ また、移動時間の短縮や交通事故減少、北関東自動車道太田藪塚IC及び国道50号へのアクセス性の向上等も期待される。

### 【渡良瀬幹線道路 塩原工区の効果】

- ・ 雨量規制区間および災害発生箇所を回避することにより、異常気象時や災害時においても安全な通行が確保される。また、通称「七曲がり」と呼ばれる線形不良箇所をバイパスにて回避することにより、平常時における安全な通行が確保される。



- 通行規制発生状況**
- H23斜面崩落 1回
  - H28落石 1回
  - H29雨量規制 1回
  - R1雨量規制 1回

- 事故発生状況**
- H24~R2 19件

バイパスの整備により、

- 雨量規制区間、斜面危険箇所の回避
- 線形不良箇所の回避

常時・異常時における安全な交通と物流を確保

### 費用便益表(個別評価)

	事業全体		残事業	備考
	前回評価時	今回再評価時	今回再評価時	
費用合計 (C)	1,680,000千円	2,848,000千円	1,997,000千円	・工事費、維持管理費
便益合計 (B)	2,550,000千円	2,968,000千円	2,968,000千円	・走行時間の短縮 ・走行経費の減少
費用対効果分析 (B/C)	1.58	1.04	1.49	

### 費用便益表(一体評価)

	事業全体		残事業	備考
	前回評価時	今回再評価時	今回再評価時	
費用合計 (C)	—	36,701,000千円	9,168,000千円	・工事費、維持管理費
便益合計 (B)	—	61,973,000千円	13,530,000千円	・走行時間の短縮 ・走行経費の減少
費用対効果分析 (B/C)	—	1.69	1.48	

## 5. 事業手法やコストは妥当か？

### 【事業採択時の計画(事業費)を変更する理由】

#### 1. 資材価格の高騰等による影響

- ・鋼材単価が平成27年から令和5年で約2.0倍になるなどの資材価格・人件費の大幅な高騰及び諸経費が年々増加していることにより、事業費が増額となる。

#### 2. 橋梁工事用道路の変更

- ・当初は、既存の地図等での調査により橋梁の架橋上流付近の左岸側から橋梁工事用道路設置を計画していたが、詳細な現地調査をおこなったところ、想定よりも急峻な地形のため大規模な盛土工事が必要となり、工事費が大幅に増加することが判明した。計画できるルートで改めて詳細な比較検討を行った結果、工事用道路の延長が大幅に伸び工事費が増額となる。



図 橋梁工事用道路

### 【今回の変更計画の妥当性】

- ・事業地内は急峻な地形が連続しており、右岸側にはわたらせ渓谷鐵道が通っているため進入可能な箇所が限られている。現状計画できる右岸側からの進入ルートや橋梁下流部からの進入ルート等で比較検討を行い、最も経済的なルートを採用しており、計画の変更は妥当である。

### 【事業費の縮減に向けた取り組み】

- ・残土を本事業内での再利用や他事業へ流用することで、コストを縮減。
- ・道路線形の見直しを行い、橋梁部を直線化することで、橋長を短縮し、コストを縮減。

## 6. 事業実施にあたり、配慮した事項はあるか？

- ・平成29年、30年に地域住民を対象にアンケート調査等により、地域のニーズを把握し地元の意見を考慮したルート選定を行っている。
- ・農地の分断を避け、農業用水、農耕用車両の移動等の影響を抑えた、既存道路を活用したルートを選定している。

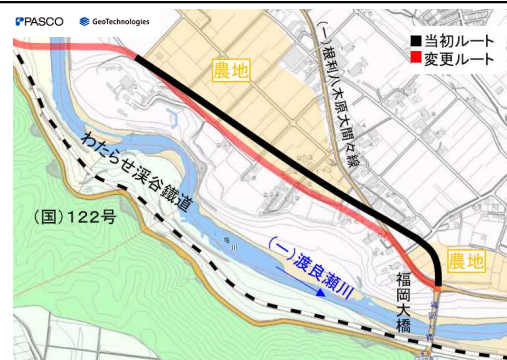


図 道路計画の変更

## 7. 事業が長期間要している理由と今後の見通しは？

- ・地域住民の意向調査結果を反映した道路線形の変更を行っており、この調整及び設計の見直しに約2年の不測の期間を要した。
- ・用地交渉が難航している地権者が複数おり、これらの解決に約2年を要する見込みである。  
以上の影響により、工程が遅延しているため、事業完了は令和7年度から令和11年度となる。
- ・令和5年度内に橋梁工事用道路に着手予定であり、来年度以降に用地取得・工事用道路設置が完了次第橋梁工事に着手する計画である。橋梁工事は、橋脚・橋台・上部工・その他附属物で5年程度かかる計画であり、令和7年度から令和11年度までを予定している。

## 8. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

事業計画の変更

スケジュールの変更

- ・ 現道の国道122号は重要物流道路の代替・補完路であるが、雨量規制区間が存在しているほか、風化が進んだ急崖斜面が連続しており、落石・大雨による通行規制が頻繁に発生しているため、バイパス整備が急務である状況に変わりはない。
- ・ きめ細やかな地元説明会の開催など、地元住民の意向も考慮しながら事業を進捗させているため期間を要している。また、用地難航箇所があり、用地取得に不測の期間を要しているが引き続き粘り強く交渉を続け問題解消を図るとともに、工事の進捗を図り、令和11年度の完成に向けて事業を推進したい。
- ・ 近年の資材価格の高騰や労務単価の上昇や橋梁工事用道路の増加等により事業費が増額しているが、残土の再利用や橋長の短縮によりコスト縮減に配慮しながら事業を進めている。
- ・ 以上のことから本事業の必要性、重要性は高く、早期に効果発現を図ることが適切であるため、事業継続が妥当である。

## 9. 市町村意見

市町村	再評価における意見
桐生市	本路線は、本市の黒保根町につながる路線であり、国道122号の危険箇所と線形不良箇所を回避することで、災害時にも機能し、安全で円滑な通行が可能になる重要な路線であるため、引き続き計画的な事業推進と早期完成をお願いしたい。
太田市	本路線は、北関東自動車道太田藪塚インターチェンジとみどり市を結ぶ主要幹線道路であり、災害時にも機能する強靱な道路ネットワークが確保される事業であるため、早期の整備をお願いしたい。
みどり市	本路線は、太田市を起点に、北関東自動車道太田藪塚インターチェンジ、桐生市、みどり市を結ぶ重要な路線であり、地域の活性化、物流の効率化、渋滞の緩和、観光の振興、災害時の避難、復旧復興等に必要「命の道」として、重要な道路であるため、早期の整備をお願いしたい。 コスト縮減を徹底し、効率的、効果的に事業を促進されたい。